

民児協だより

ふれ愛



中標津町民生委員児童委員協議会
(中標津町役場町民生活部福祉課内 ☎74-0884)



この広報誌は赤い羽根
共同募金の助成を受けて
発行しています。

=第68号=
令和8年9月発行

全道から57名が集まり1グル
ープ6人で2日間、みっちりグル
ープワークでした。岩見沢、江別、
して来ました。

7月15日、16日に民生委員児
童委員協議会(民児協)会長・副
会長教室が札幌で開催され参加
して来ました。

深川、えりも、中標津と50代から
70代の男性2名、女性4名のグル
ープで、テーマに沿って活発な話
し合いが出来ました。昼食時間
も全員でお弁当を食べながら、そ
れぞれの活動の話を聞くことが
でき、とても参考になりました。

副会長 杉本 千枝美

中標津町民生委員児童委員協議会

「つながる」



副会長 杉本 千枝美



民生委員 主任児童委員を ご存じですか?



民生委員・児童委員には、主に児
童のことを担当する主任児童委員
がいます。「主任」とは役職ではなく、
主に児童に関する仕事を担当する
という意味です。中標津町には3名
おり、担当地区の区別はなく町内全
域を担当しています。学校や関係機
関と連携しながら、子どもたちや子
育て家庭を見守っています。

活動内容は、学校訪問や関係機
関との連携、研修への参加、全道や
管内の主任児童委員との情報交換
などさまざまです。最近では、
Zoomを活用した「おしゃべりサ
ロン」などを通して、地域を越えて学
び合う機会も増えています。

私たちは、「主任児童委員は、学
校でもない、家庭でもない、地域の
大人として子どもたちを見守る存

在」だと思っています。困ったときに
相談に乗ることはもちろんですが、
「先生や親以外にも、自分のことを
気にかけてくれる大人が地域にはい
る」ということを、子どもたちに知っ
てもらえたらうれしいです。

(小柳 ひろみ)



編集後記

少し前になりますが、手話講
習会に参加した時の事、耳の不
由な方(ろう者)から日常生活に
ついて手話講師の方を交え沢山
知ることができました。私が一番
ビックリしたお話が、バリウム検査
の大変さについてでした(検査員
がマイク音声で体の向きを指示
する事などです)。民生委員にな
る前は全然気づきもせず知らな
かった事に考えさせられました。

確かに委員になると忙しいと
思う時や色々な方との会話など
大変なこともあります。年月を
重ねることに民生委員というのは
楽しさを感じながら色々な事を
学び日々の生活のあらゆる事に興
味を持つ事が大切なかもしれ
ないと思う今日この頃です。

(松田 むつ子)



◎本誌へのご意見や問い合わせなど、身近な
民生委員児童委員にお寄せ下さい。

令和8年度中標津町民生委員児童委員協議会 道内研修(帯広市・浦河町)

研修の概要

6月3日(水)から6月5日(金)帯広方面を研修先として中標津町民生委員児童委員20名が参加しました。新たな委員も加わり移動中の車中や研修先での会食など参加者同士の懇親を深める良い機会にもなりました。

研修内容は以下の通りです。

6月3日は帯広市にある児童養護施設十勝学園の施設見学し、「十勝学園について」の講義を受けました。

また、帯広市役所で「ひきこもり支援事業について」の講義を受け、場所移動して、ひきこもり支援ステーションゆつくりんの施設見学しました。6月4日には、浦河町にある社会福祉法人浦河べてるの家の施設見学し、「浦河べてるの家の事業について」と「当事者研究について」の講義を受けました。

6月5日の最終日にはビート資料館などを見学して帰路につきました。
(音川 清美)

「児童養護施設十勝学園・ひきこもり支援ステーションゆつくりん」を訪問して

研修初日、帯広市にある十勝学園を訪問し、施設内見学の後、学園長の山本敏博さんの講義を受けました。

当学園は、児童福祉法に基づいた施設です。様々な事情から、家族による養育が困難な概ね1歳から18歳の児童が入所しており、生活支援、自立支援などを行っています。

児童指導員や保育士が、主にも子ども達を見ており、近隣の学校に通学しています。また、季節ごとに、ボランティアやライオンズクラブ等による行事や十勝管内の養護施設との交流も行っています。

研修当日、子ども達が明るく挨拶をしてくれた事が、とても印象的でした。
(石川 誠子)



十勝学園での施設見学



ビート資料館での説明



帯広市役所での講義

「浦河べてるの家」について

研修2日目は、帯広市から再びバスで約3時間移動して、「浦河べてるの家」を訪問しました。

当初は、「べてるの家」自体を予定していたところですが、訪問先からの提案により、「当事者研究」というものを見学するため、会場が「浦河教会」に変更となりました。

初参加でもあり、何の研究なのか、まったくイメージが湧きませんでした。したが、いざ訪問してみると、なかなか興味深い内容でした。

施設利用者の方が、自分自身の過去を改めて見つめ直し、これまで



カフェぶらぶらでの食事(べてるの家経営)

の人生や、病気に関係した事柄を研究し発表するというのが、研究し発表するということなのです。

病気の原因になった事や、うまくいかなかった事、逆に良かった事や改善できた事。そこには個人的な内容も含めてオープンに他者と情報共有し、苦勞を分かち合いながら、前向きな意見を出し合うという手法で行われました。

普通は、隠しておきたいと思うであろう事柄を仲間と共有する事で信頼関係も生まれるのでしょうが、非常に勇気が必要な研究であり、これを行うということは、それだけ自信を持てたんだなと感銘を受け、大変勉強になりました。
(佐久間 照雄)



浦河教会

第30回フレンドリーサマーキャンプ に参加して

7月26日、「第30回フレンドリーサマーキャンプ」が開催されました。当日は暑すぎることもなく、心地よい風が吹く過ごしやすい一日となりました。子どもたちをはじめ、福祉事業所を利用している皆さんやボランティアなど、多くの参加者が集まり、ワークシヨップやゲームを楽しみました。昼食には、みんなでカレーライスを囲み、笑顔あふれるひとときを過ごしました。

私も長年このキャンプに参加していますが、毎年楽しみにしていることがあります。それは、福祉事業所を利用していらっしゃる皆さんが笑顔で声をかけてくださることです。

近況を話したり、一緒に活動を楽しんだりする中で、自然と顔なじみが増え、温かなつながりが生まれているのを感じます。



このキャンプでは、障がいの有無や年齢に関係なく、一人ひとりが自然に交流し、お互いを尊重しながら過ごしています。毎年積み重ねられてきた交流が、誰もが安心して参加できる雰囲気をつくっているのだと改めて感じました。30回という節目を迎えたこの活動が、これからも多くの人にとって笑顔あふれる交流の場として続いていくことを願っています。
(小柳ひろみ)

